

会員増強について考える

別府中央ロータリー・クラブ

鳴海淳郎

はじめに	1
I. 会員減少について思う	2
II. 会員増強について	3
III. ロータリーを最良の状態にするには	4
IV. ロータリーに関する広報の重要性	5
V. 『ロータリー物語』の発刊について	6

はじめに

Sharing Rotary, ロータリー精神を共に分かち合うことは、われわれロータリアンの使命であります。

国際ロータリー定款第3条にありますように全世界にわたってロータリーを奨励し、助長し、拡大するために、われわれロータリアンは新会員のスポンサーとしてロータリー精神を体得した人を一人でも多くつくり、平和な住みよい社会をつくらなければなりません。

また、何と申しましても、ロータリーの拡大・増強はロータリーの生けるしるしであり、ロータリー始まって以来常に直面している問題であります。

パウロ・コスタ国際ロータリー 1990～91年度会長は、ロータリアン誌 1991年1月号に寄せた会長メッセージの中で、『1991年の始まりは、20世紀最後の10年間に入る第一歩であるという意味で、特に意義深いものである』とし、西暦2000年までに会員数を200万人にするという目標 (2,000,000 by 2,000) を提起しました。そして、『この大目標の達成は決して夢ではなく、現在 100万人の会員が今後10年間に夫々一人ずつ新会員を増やせば、西暦2000年までに会員数は200万人の大台に乗るはず』としたのであります。

しかし、現実には中々厳しく、やっと120万人に近い状態です。

ところで、会員数の減少が云々されており、1998年12月31日現在でクラブ数は拡大していますが、会員数は約1%減少しているとのこと。次に、会員数の減少について考えてみましょう。

I. 会員減少について思う

1. 1998年12月31日現在の状況：クラブは拡大しているが、会員数は約1%減少していると言う。

2. 会員数減少の原因

① 不況も原因の一つと考えられるが、本来ロータリーは不況に強い筈。

・ロータリーは極めて不安定な社会的・金融的情勢の中で生まれたもので、今の厳しい時代にこそロータリーを感じる時である。

・『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』というロータリーの標語の源になったシェルドンの発想は1908年のある晩とされているが、当時のシカゴは商道德の地に墮ちた暗黒の時代であった。

・ハーバート・テラーの『四つのテスト』が出来たのは1930年代で、大恐慌のいやな日が続き、何百万という人々が職を失い、会社は至るところで破産に瀕し、銀行でさえも安全ではなかったという、その国の歴史上極めて困難な時代であった。

② 最大の原因はロータリーに魅力がなくなったことによる。

・アメリカは好景気であるに拘わらず、会員が減少していると言うが、これを突き詰めて行くと、どうも最大の原因はロー

タリー離れによるものと思われる。

・ロータリアンすべてが、先輩たちが確立した素晴らしいロータリーの基本的な原則を守らなくなってきた為に、ロータリーの信用が落ち、新会員の心をつかむことが出来なくなったのではないか。

・ロータリーは巨大な組織に発展したが、ひ弱な巨人になってはいないか。

・先輩たちが確立した素晴らしいロータリーの基本原則を守り、ロータリーの魅力と信用を取り戻そう。

II. 会員増強について

1. 会員増強は、まず退会防止から

① 退会防止6つのアイデア

・Orient：入会前のオリエンテーションをよく行う。

・Induct：新会員を気持ちよく迎え入れる。

入会式を感動的に。

・Educate：共に勉強する機会をもつ。（会員教育）

・Involve：一緒に奉仕する機会を与えて、参加させる。

（奉仕への参加）

・Assign：紹介者の他に、顧問ロータリアンを指名する。

・ Ask : アドバイザーを依頼する。

② クラブの魅力と求心力を強くする。

2. 積極的な会員増強

① ロータリアンは新会員を推薦する義務がある。

② 会員増強、クラブ拡大は無理せず。

③ クラブに合った増強を。

④ 会員増強とクラブ拡大を実現するためには

会員一人ひとりの情熱と努力が大切。

全会員が一丸となり、更なる誠意と情熱と知恵を傾けて
取り組む。

⑤ 会員の質的向上に力を注ぐことが、会員増強のための最善の
手段（ラビッツア会長）

Ⅲ. ロータリーを最良の状態にするには

1. ジョージR. ミーンズ 元R I 事務総長のメッセージ

Rotary : the Best is yet to be ! (ロータリー未だし)

これはロータリアン誌1972年1月号に寄せられたメッセージのタイトルである。彼は1953年より19年間事務総長の職にあり、1972年1月その職を辞したが、このメッセージは彼が退任にあたって全世界のロータリアンに向けたもので、過去19年間にわたる事務

総長の体験を通じ、ロータリーの明日の発展を訴えた一文である。

彼はこの中で『ロータリーは良きものであるが、よりよくすることが出来る筈のものであり、私はロータリーが最良の状態に達するのはこれからのことであると信じている』と言っている。

この言葉はそれから20年以上経過する今日においても、なお、あてはまり、大いに反省させられる。

2. 『ロータリーの今後は組織的発展と共に、精神的発展にある』

1991年10月、中津における当地区大会で話された蔵並定男 R I 会長代理の言葉。

3. サブー 元R I 会長の言葉

ロータリーを最良の状態にするには、完全無欠なロータリアンになることを目指して質を高めることである。

Ⅳ. ロータリーに関する広報の重要性

1. 有益な奉仕活動はロータリーの最も優れた広報源であり、メディアの注目を集めるもの。

2. 時宜に即した効果的な広報によって、地域社会の人達がロータリー活動の意義に注目し、入会してロータリーの一員になりたいという動機づけを与えるものとなる。

3. これが自然とロータリーの拡大・増強につながる。

V. 『ロータリー物語』の発行について

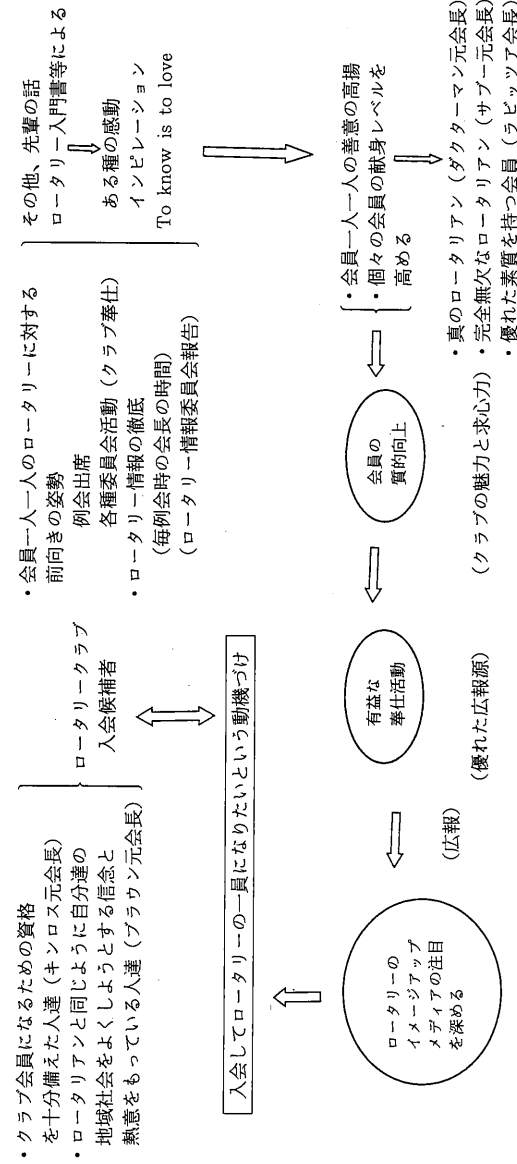
このような意味で、わたしはロータリーのスポークス・パーソンの一人として、西暦2000年1月のロータリー理解推進月間を期して一般の人にロータリーを理解していただくために、別府中央ロータリー・クラブの名において『ロータリー物語』という小冊子を発行した次第です。



以上は1999～2000年度 R I 第2720地区大分県5分区合同 Intercity Meeting (平成12年1月23日) における、シンポジウム「会員増強について考える」においてなされたアドバイザーとしての発言を纏めたものである。

2000年5月

地域社会とロータリー・クラブ



【著者略歴】

鳴海 淳郎 (なるみ じゅんろう)

- 別府中央ロータリー・クラブ シニアアクティブ会員 (皮膚科医)
- 日本皮膚科学会功労会員
- 別府市楠町14-8

医療法人社団 鳴海クリニック 理事長・院長

1970年9月 : 別府ロータリー・クラブ入会

1986~87年度 : 別府ロータリー・クラブ会長

1988~89年度 : 特別代表

1989年3月 : 別府中央ロータリー・クラブ創立会員

1988~89年度 }
1989~90年度 } 別府中央ロータリー・クラブ初代会長

1991~92年度 }
1993~94年度 } 国際ロータリー第2720地区 ロータリーの友委員

1995~96年度 : 別府中央ロータリー・クラブ会長

1996~97年度 }
1998~99年度 } 国際ロータリー第2720地区 大分県第三分区代理

2000~01年度 : 国際ロータリー第2720地区 ロータリーの友委員

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー (7回)

ベネファクター, 米山功労者 (2回)